

森の通信

宮崎県総合博物館だより

第17号

発行日/平成5年8月16日

Museum and Cultural Institutions of Miyazaki Prefecture

発行／宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985) 24-2071

特別展「宮崎—チョウの世界」 平成5年9月18日(土)開幕!

～自然の中のチョウの不思議さ美しさを探る～



照葉樹林の珍チョウ ヒサマツミドリシジミ

昆虫の中でもチョウ類は、昔から身近な生き物として、愛され親しまれてきました。そのチョウの分布や生活は長い歴史の中でつくられてきたものであり、それぞれの種類で独特の特徴を持っています。昆虫類の中では、最も研究の進んだグループのひとつですが、まだまだ未知の部分が多く魅力ある存在となっています。また、チョウのはねや形・色彩はさまざま、自然の造形物としての美しさも兼ね備えています。

本展覧会では、身近なチョウから約130種に及ぶ宮崎のチョウの全種を標本で展示解説するほか日本全土や世界のチョウについても紹介しま

す。

さらに、生きたチョウの幼虫や成虫、チョウの切手、ミクロの世界についてもあわせて展示します。

(岩崎)

会期

平成5年9月18日(土)～10月19日(火)
午前9時～午後5時 (入館は4時30分まで)
休館日=9月20・24・27日 10月4日

入館料

大人 400(300)円

高大生 300(200)円

小中生 200(100)円

※()内は、団体(20名以上)の割引料金

新収蔵資料紹介

河野明綱氏植物標本コレクション

河野明綱氏は宮崎大学農学部植物病理学教室の教授で、専門外の高等植物の採集もされており、1951～1990年に集められた標本をご寄贈いただきました。標本は美しく、分類別に整理されており、その多くは里山のもので、現在は開発され消滅したものも含まれています。

種数は1,076種で3,682点であり、キク科、イネ科、ユリ科、ラン科、マメ科、バラ科、カヤツリグサ科、シソ科等が多いようです。これらの中にはヒロハドウダンツツジ（延岡市可愛岳産：本県唯一）など特記すべきものもあります。またタカサゴソウ・ヒキヨモギ・ミシマサイコ・

オオトモエソウのような絶滅が危惧され、見ることが難しくなった植物がかなり含まれております。（南谷）



ヒロハドウダンツツジ（宮崎県唯一の採集）



さまざまな庶民生活資料

近代の庶民生活資料

—昭和も遠くなりにけり—

このたび、宮崎市内在住の島丸洋氏と二宮義孝氏から、昭和時代前期の資料を中心とした近代の庶民生活資料が寄贈されました。

宮崎県で最初のテレビ、蓄音機や戦前にバスガールにより吹き込まれた宮崎名所案内のSPレコード盤、真空管のラジオやゼンマイ仕掛けの掛時計、戦時に発行された紙幣や軍事債券、古銭類、自転車の前照灯として用いられたカーバイトライトなど。これらの中には、現在では眼にすることができなくなった貴重な資料がたくさん含まれています。私たちにとって最も身近な時代—昭和時代の様々な資料が、最近急速に姿を消しつつあるのは残念なことです。（津限）

陶磁器3点



岐阜県在住の陶芸家、松山祐利氏から自作の陶磁器3点が寄贈されました。

松山氏は、大正5年都城市に生まれ、武藏野美術学校に進み、陶芸家の富本憲吉に師事しました。全国の土を求めて10年間模索し、

昭和30年、岐阜県土岐市に窯を設けました。志野、信楽焼を学び、自然釉を用いた独自の作風を開拓しています。

松山祐利氏

昭和55年には土岐市より文化功労者として表彰されました。（高橋）



ふるさとの正月

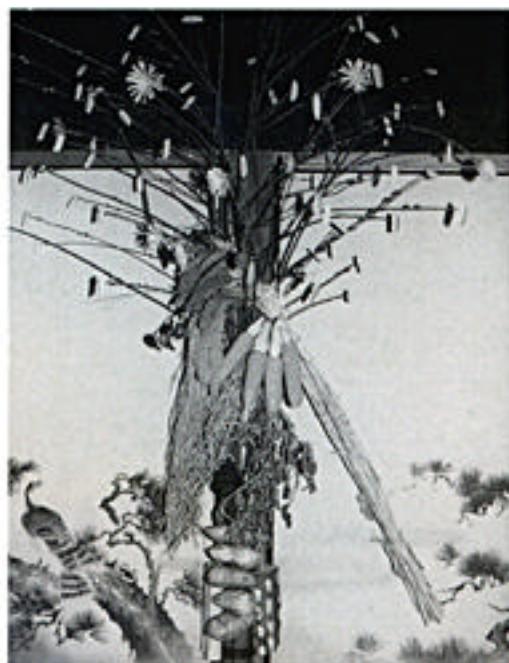
民俗部門では、今年度後半「ふるさとの正月」というテーマで、コーナー展示を行います。

人々は、無病息災、家内安全、五穀豊穣などを願って、さまざまな行事を行ってきました。年中行事、なかでもとりわけ、正月行事は、私たちの生活と結びつきの深い行事です。

県内で、今日も見ることのできる正月の飾りものの代表の一つに、椎葉村の「作祝い（さくいわい）」があります。柳の枝に赤・白・緑の切り餅をさして広げ、その下に小豆・大豆・栗・稗・とうきびなどを結びつけます。さらに、甘藷などを垂らし、栗穂・稗穂のつくりものも垂らします。これらは部屋の柱に取りつけた竹筒にさして飾ります。

本展示では、正月行事のさまざまな飾りものを中心に紹介するものです。（地村）

（展示期間：9月18日（土）～）



作 祝 い

たしろがはえ
田代ヶ八重遺跡の調査

今回、埋蔵文化財センターに展示される土器・石器などは、綾北川総合開発建設事業に伴って発掘調査された田代ヶ八重遺跡（須木村大字中原）で出土したものです。平成2年から3年にかけての県教育委員会による調査の結果、縄文時代前期から晩期の土器・石器が出土し、後期の竪穴住居が2軒検出されました。

まず桜島の南に位置する鬼界カルデラが噴出したアカホヤ火山灰降下後の縄文時代前期（今から約6千年前）になると、当遺跡に人が住みはじめ、幾何学的な沈線文を施した曾畠式土器、ミミズばれ状の細隆起線文を施した轟式土器が出土しています。

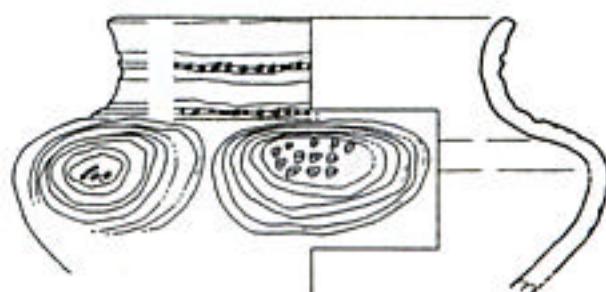
後期（約4千～3千年前）になると、隅丸方形の1号住居と円形の2号住居が営まれます。中九州地方の北久根山式系土器・西平式土器、南九州地方の市来式土器・指宿式系土器・綾式土器、北九州地方の鐘崎式土器、瀬戸内地方の福田KII式系土器、黒色磨研土器が出土しており、土器の系譜は種々で複雑な様相を示しています。また、右図の沈線間に貝殻腹縁刺突文による擬

似縄文を施した壺が注目されます。

当遺跡出土の石器38点を用途別に分類すると、打製石鏃などの狩猟用具が37%、打製石斧などの土堀り具11%、石皿などの植物調理用具11%、磨製石斧などの加工具26%、石錐などの漁労具16%で、狩猟の依存度が高い。なお縄文時代は米作り以前で狩猟・漁労・採集の時代ですが、当遺跡の石器組成からもうかがえます。

以上のように縄文時代後期における当遺跡と種々な地域との交流が土器によって知ることができたことが大きな成果でした。（長津）

（展示期間：9月22日（木）～平成6年1月16日（日））



田代ヶ八重遺跡出土の壺

ふれて学ぶ!! 博物館こども教室

毎月第2土曜日、本館を児童生徒に無料開放するとともに、自然・歴史・美術等の基本的な事柄について楽しく学べる講座を設けています。

実習や観察、見学、鑑賞等を多くとり入れ、バラエティーに富み、親しみやすい講座内容になっています。
(高橋)

■今後の活動予定

期日	タイトル	内 容
9・11 第5回	大昔の石で きた道具(石器)	矢じりや石斧など、縄文時代の石器の成り立ちや使い方などを、実物に触ながら学習します。
10・9 第6回	郷土の美術作 品を鑑賞しよ う	郷土出身及びゆかりの作家の代表的な美術・工芸作品を鑑賞します。
11・13 第7回	映画鑑賞 「アルプスの 少女ハイジ」	県民文化ホールで開催される、森の名画座で「アルプスの少女ハイジ」を鑑賞します。
12・11 第8回	お正月がやつ てくる	昔から行われてきた正月行事の話を聞き、子供の行事や遊びを体験します。
2・12 第9回	触れて考える 「おかね」の歴 史	和同開拓以来の「おかね」の歴史を振り返り、貨幣と人々との関わりについて考えてみます。
3・12 第10回	映画鑑賞 「大自然の驚 異」	県民文化ホールで開催される、森の名画座で「大自然の驚異」を鑑賞します。

《これまでのこども教室の様子》



第2回(5月)
「神宮の木立ち
をかこう」



第4回(7月)
「草木と遊ぼう」



ピカソ作「肘掛け椅子のベルベット帽の女と鳩」(1915~1916)



瑛九作「蝶と女」(1950)

ピカソの作品公開

—— 館蔵秀作美術展

本館では、9月17日より10月19日まで館蔵秀作美術展を開催します。この展覧会は館蔵品の中から、絵画・彫刻・陶磁器・刀などの秀作約70点を選び展示するものです。

この中で平成4年度に新設美術館資料として収集したパブロ・ピカソ(1881~1973)の作品を展示します。

ご存知のとおりピカソは、キューピズム(立体派)というそれまでの絵画の概念を大きく変える作風を追求しましたが、今回展示する「肘掛け椅子のベルベット帽の女と鳩」も、立体的な対象を平面的に仕上げるというキューピズムの特徴が顕著に表れた作品となっています。

このキューピズムの作風はその後の画家たちに大きな影響を与えました。宮崎市出身の前衛画家瑛九(1911~1960)もその影響を受けた一人です。彼の描いた「街」「蝶と女」「だだっこ」などはその特徴が特に感じられる作品です。

ピカソと瑛九の作品を比較しながら鑑賞すると、興味は尽きないと思います。
(家中)